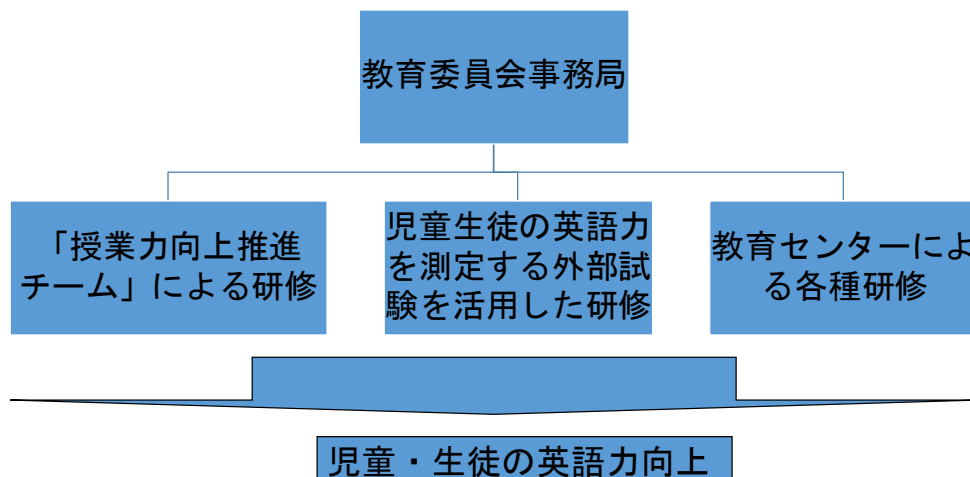


# 福岡県／北九州市英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 研修体制の概要

下の図に示すとおり、各研修趣旨を踏まえ、系統性をもって児童生徒の英語力向上につなげていく。また、事務局等と学校間の連携を通して、各研修内容の充実を図る。



- 「外国語科授業力向上推進チーム」による研修
  - ・ 訪問研修（授業参観・指導助言を含む）の実施
  - ・ 「メンタリング教員」、「英語教育推進リーダー」、「学力向上推進教員」、教育委員会事務局が連携し、新規採用教員と若年教員を中心に全中学校を訪問し、授業参観と指導助言を伴う研修を1ヶ月に1回程度実施
  - ・ オンラインでの双方向型（伝達型）の研修と対面型の研修（グループワーク等活動型）のハイブリッド型授業力向上研修を実施
  - ・ 学校の新しい生活様式における研究推進校等のオンライン授業公開やオンデマンドによる研修の実施
- 児童生徒の英語力を測定する外部試験を活用した研修
  - ・ 生徒の英語力を測定する外部試験を活用し、統一スコアで英語力を測定し、事前・事後研修を通して、教員に自己の授業実践を分析させ、改善につなげる。
- 教育センターによる各種研修
  - ・ 年次研修の悉皆研修としてキャリアステージに応じた授業力を向上させる研修を実施

## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

## ① 学習到達目標の整備状況

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】51.6%

【具体的な方策】

## ○ 「研修の実施」

- ・ 中学校外国語科教員授業力向上研修をはじめ選択型公開授業研修会等で、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の公表の意義等について研修する。
- ・ 小学校外国語の教科化に伴い、学習到達目標を踏まえた授業づくりの重要性について、研修等において理解を深めていけるよう周知していく。作成にあたっては、英語教育リーディングスクールの作成した学習到達目標を参考にするよう指導する。

## ② 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】62%

## 【具体的な方策】

- 外国語科における授業実施上の「北九州スタンダード」を踏まえた授業の徹底
  - ・「北九州スタンダード」を踏まえた授業スタイルの徹底を図り、集合型研修、訪問型研修等複数回チェックの機会を設けて授業力の向上を目指すと同時に、達成状況を把握して、検証する。

## ③ 「パフォーマンステストの実施状況」

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】スピーキングテスト 3回

ライティングテスト 4回

## 【具体的な方策】

- 「パフォーマンステストの好事例の普及と共有」
  - ・研究指定校等によるパフォーマンステスト（評価規準・評価方法等）の動画やワークシート等をKitaQ せんせいチャンネル等（教師用データバンク）を活用して、好事例の普及を図る。
- 「ICTを活用したパフォーマンステスト実施例の普及と好事例の共有」
  - ・児童生徒一人一台端末を活用し動画撮影機能などICTを活用し、パフォーマンステストを実施し、好事例の共有と普及
- オンライン英会話実証事業
  - ・小学校におけるオンライン英会話事業において、効果や課題を検証、今後の導入を見据える。

## ④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】62.2%

## 【具体的な方策】

- 外国語科における授業実施上の「北九州スタンダード」を踏まえた授業の徹底
  - ・「北九州スタンダード」を踏まえた授業の徹底を図り、集合型研修、訪問型研修等複数回チェックの機会を設けて授業力の向上を目指すと同時に、達成状況を把握して、検証する。
- 「研修のオンラインと対面型のハイブリッド化」
  - ・伝達研修をはじめ選択型公開授業研修、訪問研修、校内研修等で、本市の授業における指導の重点に基づいた研修を行い、自らの英語力、授業力向上を図ることで、児童生徒の英語力をさらに向上させることにつながることを認識させる。
- 「2技能を測定する外部試験を活用した研修の実施」
  - ・英検I B Aの統一スコアで英語力を測定し、事前・事後研修により教員に自己の授業実践を分析させ、改善につなげる。
- 「ALTを活用した英語力向上校内研修」
  - ・ALTを配置している期間に、1ヶ月1回50分程度、校内における英語力向上研修を実施し、教師の英語力の向上、ALTとの豊富なやり取りのある授業へと改善につなげる。

## ⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】39.7%

## 【具体的な方策】

- 「研修のオンライン型と対面型のハイブリッド化」
  - ・伝達研修をはじめ選択型公開授業研修、訪問研修、校内研修等で、本市の授業における指導の重点に基づいた研修を行い、自らの英語力、授業力向上を図ることで、児童生徒の英語力をさらに向上させることにつながることを認識させる。
- 「ALTを活用した英語力向上校内研修」
  - ・ALTを配置している期間に、1ヶ月に1回程度30分～50分程度、校内における英語力向上研修を実施する。
- 「2技能を測定する外部試験を活用した研修の実施」
  - ・統一スコアで児童生徒の英語力を測定し、結果を基に教員に自己の授業実践を分析させ、改善につなげる。

## ⑥ 求められる英語力を有する生徒の英語力

【目標及び数値指標】別紙 目標管理書の通り

【令和元年度 現状】48.6%

## 【具体的な方策】

- 「CAN-DO リストの活用」
    - ・生徒の自らの英語力の到達度を把握させるために「CAN-DO リスト」の活用を推進するとともに、併せて英語力を客観的に測ることができる外部試験（英検 IBA）等も活用し、令和2年度の達成目標（50%）を目指す。
  - 「2技能を測定する外部試験を活用」
    - ・小学校6年生から中学校3年生まで通して英語力を測ることができる統一スコアを活用して、小中連携し生徒の英語力を育成する。
  - 「中学生が英語を使って表現したり、英語を試したりする機会の提供」
    - ・生徒が英語で話す機会の確保のため、国際交流と英語力向上を目指したイベントや、スピーチコンテストも実施する。
  - 「研修のオンライン型と対面型のハイブリッド化」
    - ・伝達研修をはじめ選択型公開授業研修、訪問研修、校内研修等で、本市の授業における指導の重点に基づいた研修を行い、教師の指導力を図ることで、生徒の英語力を向上させる。実施方法については、業務改善の観点から、オンライン型、対面型など様々な形態で効果的に行う。
- ⑦ 「新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合」
- 中学校外国語科教員を小学校外国語科専科として配置
    - ・英語に関する専門性、働き方改革、小中連携の観点から各年一定数を配置
  - 有資格者の一次試験実技試験免除
    - ・求められる英語力を有する教師を確保するために、平成30年度実施の教員採用試験から、「英語有資格者の特例」として、本市が定める一定の英語力をもつ受験者について、一次試験においては「英語リスニングテスト」及び「英語に関する試験」、第二次試験においては「英会話実技」を免除するなどの取組を行っている。
    - 今後も5年後を見据え、本市が定める一定の英語力について、段階的にその要件を引き上げていく。

## (3) 研修の体系と内容の具体

## 【小学校】

## 1. 集合型研修

## (1) 専門研修（教科等研修B〔授業づくり編〕）

期間：半日

対象：悉皆年次研修対象者、希望者

内容：効果的にICTを活用した授業づくり、英語教育推進リーダー等を研修サポーターで

## 活用

- (2) 専門研修（教科等研修〔理論編〕）※ オンライン開催  
期間：半日  
対象：悉皆年次研修対象者、希望者  
内容：教科調査官、大学教授等の講話形式
- (3) 選択型授業公開研修  
期間：半日  
対象：希望者  
内容：授業参観と協議会、指導主事講話
- (4) 英語教育リーディングスクール（研究協力校）における実践および公開授業  
期間：年1回程度  
対象：希望者、外国語主任  
内容：PDCAサイクルによる実践から、児童が外国語に慣れ親しみ、既習内容の定着を目指した研究を行い、その実践の成果を授業の中に反映させ、参加者へ啓発する。
- (5) 小学校英語専科加配についての研修  
期間：年5回程度（令和3年3月、7月、10月、12月、令和4年2月実施予定）  
対象：小学校英語加配専科教員  
内容：小学校外国語の教科化を踏まえた指導方法の具体等について指導する。また、授業を公開して相互に見合い、言語活動の充実を目指した授業改善に向け協議する。

## 【中学校】

## 1. 集合型研修

- (1) 専門研修（教科等研修A〔授業づくり編〕）  
期間：半日  
対象：悉皆年次研修対象者、希望者  
内容：効果的にICTを活用した授業づくり
- (2) 専門研修（教科等研修〔理論編〕）※オンライン開催  
期間：半日  
対象：希望者  
内容：教科調査官、大学教授等講話形式
- (3) 選択型授業公開研修  
期間：半日  
対象：希望者  
内容：授業参観と協議会、講話
- (4) 英語教育リーディングスクール（研究協力校）における実践および公開授業  
期間：年1回程度  
対象：希望者  
内容：PDCAサイクルによる実践から、生徒の英語力向上を目指した指導方法の研究を成果と課題を分析し検証すると同時に、公開授業研修会においてはその実践の成果を授業の中に反映させ、参加者へ啓発する。

## 2. 訪問型研修

- (1) 授業改善支援訪問  
期間：通年希望日  
対象：若年教員（5年次まで）悉皆、希望者、希望学校  
内容：授業参観と協議会、講話
- (2) 特定教科教員訪問  
期間：每学期1回程度

3. 校内研修

(1) A L Tを活用した教員の英語力向上のための校内研修

期間：毎月1回程度、1回30分～50分程度

対象：外国語科教員

内容：Bridgeなどの教材を活用し、A L Tが主体で英会話レッスンのような形式

4. 自主研修

(1) 北九州中学校英語教育研究会主催

期間：年間数回程度

対象：希望者

内容：講話、英語教育推進リーダーによる実践発表等

